

令和2年度 福井県立藤島高等学校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切かどうか。
・その他

(意見をお聞きした方) PTA会長(1名), 副会長(3名), その他のPTA役員・常任委員(18名)

○全般的評価について

- ☆今年度に限られることかもしれないが、学校の中の生徒の様子を見る機会は著しく少なく、行事への参加もなかったため、文書でのみの報告を見てもあまり有意な感想を持つことができなかった。
☆保護者へのアンケートについて1年生と3年生では学校の指導内容に対して理解度が違うのではないかと感じる。生徒同様に学年別に集計してもいいかもしれない。
☆今後もできる限り一人一人に目を配った指導をお願いしたい。

- コロナ禍において試行錯誤しながら本年度の取り組みをしていたと思うが、概ね高い評価を得ており、校長先生を始め教職員の精励恪勤によるものと感謝している。
 PDCAサイクルが確実に実行されており、学校全体としての向上策・向上心の適切さや上昇を感じられる。
 学年が上がるにつれ評価が上がっているのは素晴らしいことだと感じる。
 アンケートの回答で「どちらかといえばはい」よりも「はい」の割合が高いことが印象的である。
 「個性と人権」という方針を打ち出していることが素晴らしく、生徒の自主性を重んじる校風が感じられる。
 遠方通学者に対する配慮にも感謝している。

○学習指導について

- ☆教職員が教育活動の推進や授業改善に取り組みに100%満足している一方で、生徒のうちの1割弱が満足していないという点に双方の意識のずれが多少感じられる。
☆授業や課題への取り組みや授業内容への満足度が3年生に比べて1, 2年生が低い。特に1年生は、コロナ禍で出鼻をくじかれたこともあるが、自主的に学習に取り組めるようになってほしいと考える。
☆今後起こりうる不測の事態による休校の際に、円滑にオンライン授業等へ移行できるよう、平素から生徒全員に配布されているタブレットの積極的な活用をお願いしたい。
☆黒板を写すのが間に合わない生徒への対応としてタブレットや電子黒板を活用してほしい。
☆教職員自身がデジタル化への対応力の向上に努め、一人一台のタブレットを有効に活用してほしい。
☆貸与されたタブレットを使用する際の接続速度がとても遅いという声がある。

- 生徒の授業に対する評価は学年が上がるごとに高くなっており、保護者からも高い評価を得ている。学校の指導方法について評価できる結果であると感じている。
 大変な教育改革の中で、ICTを生かした授業やオンライン授業などを取り入れ、充実した指導を行っていたと感じている。

○生徒指導について

- ☆コロナ禍における新たな生活様式に対応できるような指導をお願いしたい。
☆今後も服装規定だけでなく様々な事柄に対して生徒自身が問題意識を持ち解決方法を自律的に考えられるような環境を作ってほしい。
☆全ての生徒が将来幸せに生きていくための指導を期待している。
☆押しつけや強い叱責のような一律な方向付けではなく、一人一人の事情や思いに応じた柔軟な指導をお願いしたい。

- 容儀規定を、時代背景や生徒の意見を参考に見直しをしていただけたことに感謝している。
 時代に合わせ多様性が求められる中、生徒たちの意見が反映され、柔軟な校則見直しをしたことはよかったと思う。
 毎日の学校生活や時代に即した生徒指導に配慮していると感じる。

○進路指導について

☆教職員と生徒の間で複数回の面談が設けられるなど、三者の満足度は高く評価されている。今後も大学の学部編成や受験方法が多様化されていくと考えられるので、より一層の情報提供をお願いしたい。

☆受け手がいかに自分のこととして考えるかも重要ではあるが、進路に関する講演会や座談会がオンラインになり、生徒への伝わり方が弱くなったように感じる。

☆進路に関する相談に来ない生徒に対しても声をかけてほしい。

☆新たな大学入試制度について様々な情報を収集・蓄積し、生徒が安心して入試に臨めるようにしてほしい。

十分な取組みに感謝している。

生徒の自主性を重んじ、また一人一人の希望に応じた進路指導を適切に行っており、感謝している。

○環境美化について

日々のコロナ感染症対策に感謝している。

○図書について

☆図書に関して、今後の改善策の中の「①新着図書情報をクラッシー等にアップする」というアイデアが面白いと感じた。一人一台配布されるタブレットを静粛タイムの読書にうまく活用できるシステムが導入できれば読書の機会も増えるのではないかと思う。

☆朝読書週間等で読書に関する意識を高めるよう粘り強く取り組んでほしい。

☆高校生になり学習量が増えたことやスマホを持つようになったことで、読書量が落ちたと感じる。改善策・向上策に期待している。

○学校と保護者の関係について

☆学校から保護者への連絡の項目について、教職員の評価と生徒保護者の評価との差が比較的大きいので、家庭への連絡をより細やかにし、十分な理解を得られるよう努めてほしい。

☆生徒の活動する校舎に立ち入ることができず、日々の活動を観察できないことが少々残念である。

☆保護者懇談の際のアンケートに一言記入できるスペースがあると保護者の生の声を集約できると思う。

○研究について

☆2年生対象の「研究」について、約95%の生徒が授業を理解し熱心に取り組んでいるにも関わらず、15%の生徒は授業内容に満足していないとの結果が気になる。

☆「研究」の満足度が比較的低いので、生徒の意見を聞きながら改善に努めてほしい。

「研究」においては高いレベルの取組みがなされていると感じた。

<「学校関係者評価」を踏まえた今後について>

・変化の激しい社会において、生徒、保護者、教職員の意識を照らし合わせ、成果と課題の考察を継続していく必要がある。

・タブレットの導入に伴い、今後の指導内容にどのように生かしていくか様々な部署で考えていく必要がある。

・長期化するコロナ禍において、様々な制限の中でいかに生徒の自主性を重んじた指導をしていくかをより一層検討していく必要がある。